

令和3年度第1回宇治市産業振興会議（要旨）

日 時	令和3年10月1日（金） 18:00～20:00
場 所	宇治市産業会館1階 多目的ホール
出席委員	白須正（会長）、川勝健志（副会長）、金丸公一、紀和憲、椎葉啓之、西村嘉高、本永治彦、吉田利一、若林哲 <u>計9名</u>
議事要旨	<p>1. 開 会</p> <p>2. 会議の公開について</p> <p>3. 委嘱状交付</p> <p>4. 市長挨拶</p> <p>3. 議 事</p> <p>(1) 宇治市産業戦略の進捗状況（資料1-①、資料1-②）</p> <p>■「(1)事業のしやすい環境づくり」及び「(2)市内産業の成長支援」について</p> <p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業支援拠点宇治 NEXT の職員が市内企業を訪問し、宇治 NEXT に関する周知や、課題等の聴き取りを実施したとあるが、どのような事業者が企業訪問の対象となっているのか確認したい。 ・ これからは、オープンイノベーションや人材確保・育成が重要なキーワードになる。多様な関係者が集まって、様々な取組を進めていくための後押しになるという点で、宇治 NEXT は宇治市独自の有意義な取組であると思う。 ・ 産業用の土地の不足が資料の中で課題として挙げられている。今後、農地転用も検討することになると思うが、例えばフードテックの企業のように第1次産業と第2次産業の間に入って取組を推進することのできる企業との連携も考えられるのではないかと。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇治 NEXT の企業訪問における対象企業について回答する。宇治市は製造業が盛んな地域であり、市内生産額のおよそ3分の1、市内従業者数のおよそ4分の1を製造業事業所が占めている。しかし、これまでは製造業事業所へのアプローチが不十分であったことを課題として認識していたため、製造業事業所を企業訪問の主な対象とした。 <p>② 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇治 NEXT を立ち上げて2年が経過したとのことであるが、市としてどのような手ごたえを感じているか。

(事務局)

- ・ 宇治 NEXT については、まず取組について知ってもらうために、各種制度を紹介するパンフレット等を携えて、企業訪問を進めてきた。資料2の30ページに示されているように、事業者アンケートでは回答者の60%近くが宇治 NEXT の名称について知っているという結果が得られている。訪問活動に力を入れてきた製造業については3/4以上が知っていると回答している。取組の方向性としては間違っていないと感じている。

③ 委員

- ・ デジタルクーポン事業は良い取組だと思ったが、10月からの手数料有料化に伴い辞められた事業所もある。デジタル決裁の導入は今後ますます重要になると思われるため、定期的に同様の事業を実施してもらいたい。
- ・ また、今後は商店街のイベント等の告知も紙媒体だけでなく、SNSを用いて人から人へ周知できるような方法でできるようになると良い。クーポンも含め、デジタルを活用した広報の支援も検討してもらいたい。

(事務局)

- ・ デジタルクーポン事業については、事業者にとっても集客効果や、クーポンの導入や入金等に関する事務手続きの軽減等のメリットがあるということを実感した。一方で、スマートフォンを持たない高齢者等、従来の紙媒体のクーポンを希望する声もある。商工会議所や事業所等と協議しながら、今後の展開について検討していきたい。

④ 委員

- ・ 産業戦略本編中の「戦略策定の背景と目的」は、変更しないという認識でよいか。
- ・ 同友会にも多く所属している製造業の事業所の人材不足が課題である。また、同友会に所属する事業所の離職率は、全国平均を上回っており、人材の定着にも課題がある。他地域からの人材や企業の誘致・定着を促進する取組を期待する。
- ・ 地域の人々が一体感を持って取り組むことができるイベント等についても検討し、地域活性化につなげてもらいたい。

(事務局)

- ・ 産業戦略は3年間の計画であり、現在2年半が経過したところであ

	<p>るが、計画において掲げた目標を達成したとはいえないため、「目標」と3つの「取組の方向性」については、事務局としては大きな変更は必要ないと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在提示しているものは、あくまで事務局の案であり、今後の議論の中で新たに追加すべき視点が挙げられることは想定している。 <p>⑤ 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画として示されている取組は、とても良いものであると思う。コロナ禍の影響がなければ、より順調に進めることができたのではないかと思う。 ・ 取組の総括シートをみると、事業によって、数値目標が設定されているものとそうでないものがある。産業振興を着実に進めるためには、数値目標をより詳細に設定することが望ましい。例えば、デジタルクーポン事業の後にキャッシュレス化に向けて新たに取り組み始めた事業所数などの数値目標が考えられる。 <p>⑥ 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業においても、人材不足と農業者の高齢化が深刻な課題となっている。京都府の統計によると、今後10年で、南山城管内で農業を生業とする人は半分になり、京都府の北の地域では3分の1になるとのことである。 ・ 商工業振興を考える際に、土地不足の解消のために農地を商工業用地に転用することが前提となってしまうことが多い。日本の食料自給率が37%しかないということを深刻にとらえ、農業者への支援施策を検討してもらいたい。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの業種で人材不足が深刻化している。さらには少子高齢化により地域の活性化を担う人材も不足し、まちづくりという視点においても重要な課題であると認識している。 ・ 食料自給率の低迷等の問題を踏まえ、今回の産業戦略では、農業分野についても議論を行っていきたいと考えている。 <p>⑦ 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山城地域の企業や農作物について宇治市のウェブサイトで紹介するなど、特に若い世代の市民に対して宇治市の企業等の魅力を伝えることが、長期的な人材確保・定着につながる。 ・ 京都府では、企業の後継者が異業種で交流しながら、互いの業種の
--	--

	<p>課題について意見交換を行う取組が実施されている。異業種交流から新しい事業展開が生まれることも期待されるため、宇治市でもそのような取組をものづくり企業に限定せず実施してみてもどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画策定においては、KPI が非常に重要である。定性的な評価と併せて、定量的な評価も行うことができるよう、指標を設定する必要がある。 <p>⑧ 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総括シートでは、課題に対して求められる取組は示されているが、これまでの取組によって実現したこと（どんなことが達成できたか）が強調されていない。戦略の見直しでは、施策の成果を踏まえることが重要である。 ・ 定量的な評価が重要であるという意見があったが、質的な評価も重要である。例えば、宇治 NEXT のセミナーによってどのような人的ネットワークが生まれたのか、ということの評価すべきである。 ・ 産業戦略の見直しにおいては、次の3つの視点が重要である。1つは、コロナ禍によって浮き彫りとなった既存の地域課題を踏まえ、施策を検討する必要がある。例えば、キャッシュレス化、デジタル化、多様な働き方の実現等は、コロナ禍以前から取組が遅れていた地域課題である。 ・ 次に、宇治市の産業全体の安定性を確保する経済構造を実現することが重要である。特定の業種に依存せず、多様な産業が相互につながっている状態を実現することが経済の安定化につながる。 ・ 3つめは、カーボンニュートラルの視点である。これからの脱炭素や温暖化対策の取組においては、国や自治体だけでなく、事業者の役割も大きい。また、これらの取組は、気候変動対策だけでなく宇治市産業の振興にも寄与しうる。 <p>■「(3)人材不足への対応」及び「(4)企業間や産学交流の推進」について</p> <p>① 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手不足の状況下において、外国人労働者はキーワードとなるのではないか。京都大学宇治キャンパスの外国人留学生等、外国人材の活用についてはどのように考えているのか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業訪問で製造業事業所に聴き取りを行った際には、外国人労働者に対するニーズは特に把握していない。 ・ 外国人労働者については、現在留学生の方だけでなく、介護や医療
--	--

分野で既に働いている方もいる。現在は市内中小企業の外国人労働者へのニーズは大きくないが、より長期的な視点で、現状をとらえ直す必要があると考えている。

■「(5)市内産業の情報発信」及び「(6)事業の担い手の確保」について

① 委員

- ・ 数年前に「碾玉（てんぎょく）」と呼ばれるお茶を宇治市で開発しているが、対外的なアピールが不十分であると感じている。

(事務局)

- ・ これまでに開発した様々なブランドのお茶や歴史公園の活用等の経緯については、前任の市長から課題として引き継いでいる。これまでの経過を少しずつ解きほぐしながら取組を進めていきたい。

② 委員

- ・ 「こども未来キャンパス」は、非常に良い事業であると思う。職業を体験する機会を提供することで、今後の人材確保につながり得る。小中学生の参加者は多いが、高校生の参加者は少ないという点が今後の課題である。

③ 委員

- ・ 情報発信は、ターゲットに応じて適切な方法を用いる必要がある。若者世代には、長文の文章ではなく、動画コンテンツによってメッセージを伝えるなど、効果的な情報発信方法を検討しなければならない。

④ 委員

- ・ 前の議題に戻るが、個別シート 15、18 ページに事業所への融資支援について記載されている。中小企業の金融の円滑化のためには融資が重要であるため、融資支援制度の継続と拡充を検討してもらいたい。
- ・ 技能功労者の表彰制度は、企業で働くモチベーションにもつながるため、推薦者が減っていたとしても継続すべきである。
- ・ これまでの議論の中で、定量評価に関する意見が挙げられていたが、例えば各項目について A～C、1～3 などの達成状況のランク付けを行うことで状況が分かりやすくなるのではないか。

■議論全体の総括

① 会長

- ・ 宇治市は、産業のバランスが良いことが特徴である。ものづくりと観光と農業のバランスを今後も保っていく必要がある。
- ・ 宇治 NEXT など、市と商工会議所が協働して取り組む環境ができていることも特徴的である。今後も市内の支援機関と連携しながら産業振興施策を進める必要がある。
- ・ 数値目標の設定については、本日の意見も踏まえて、より適切なものを検討していきたい。

(2) 産業用地創出に向けた取組の進捗報告（資料3）

① 委員

- ・ 当面の産業振興のために農地を転用し産業用地を創出せざるを得ないのかもしれない。宇治徳洲会病院の移転の際、病院が市外へ移転すると困ることに理解を示し、農地を潰す代わりに農業振興を進めることを前提に農地転用についても賛成した。しかし何ら農業振興は進められなかった経過がある。今回も農業振興をしっかりすると言うが、何ら担保がない。広い範囲の農地を転用する以上は農業振興施策の充実が前提である。
- ・ 候補地を3つ挙げているが、24号線沿いを進めるために他2候補地を挙げているように感じる。3候補地のうち24号線沿いを優先的に進めると言うが、その他2候補地について、今後の計画が既にあるのであれば教えてもらいたい。

(事務局)

- ・ 農地を転用するだけでなく、農業振興も同時に進めていく必要があるということを確認しているが、農業振興については現時点で具体的な計画があるわけではない。まずは産業誘致を進めなければ宇治市経済全体が停滞してしまうため、3か所の産業立地検討エリアのうち、まずは1か所から取組を進めていきたい。そのうえで様々な事柄を見極めたうえで次に進む必要がある。

以上